

GL Sciences

第44期報告書

平成22年4月1日～平成23年3月31日



Inert Family



To Our Shareholders

株主の皆様へ

平素格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

このたびの東日本大震災により被災された地域の皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

さて、ここに第44期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）の営業の概況などにつきましてご報告申し上げます。

当社は昭和43年の創立の際に、会社はどのような思想を持ち、実現していくかという、経営に対する姿勢、理念を「創立の根本精神及び経営理念」に掲げました。その中で創立の目的は、「同一の思想を持ち、信頼し合うことのできる人間が集まって、何かの仕事を通して、経済的無から一つの理想体を造りあげる事への挑戦」であると謳っております。

この「創立の根本精神及び経営理念」に基づき、当社は「社会に対し社会性を充分発揮してその存在価値を高め、社員個々の幸福を勝ち取り、企業の維持、発展をならしめること」を基本理念とし、そして、その結果得られた利益を株主、社員、社会に公平に分配し、また一部を社内留保して、会社の事業内容を充実させ発展させることが最大の社会性を意味すると考えております。

この基本理念を実現していくために、当社では創立以来毎期、必要な人件費、経費、そして適切な利益を得るための売上などを記載した付加価値経営計画や、全役員個々の年収を株主、金融機関、社員に公表するなど情報の開示に努めてまいりました。このようにオープンな経営姿勢に対する社員個々の意識の高まりが互いの信頼感を強くし、個々の能力を

十分に発揮させることで、計画達成という一つの目標に邁進することができたと確信しております。

今後につきましても引き続き不透明かつ厳しい経営環境が予想されますが、当社を安定的・継続的に発展させるべく社内改革も進めながら体質強化に努め、お客様のニーズに合った製品の開発と効率的な営業活動をより一層強化して、業績の向上を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年6月

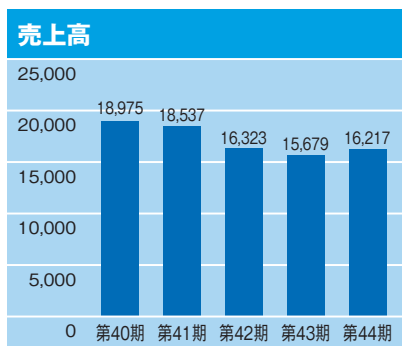


取締役社長

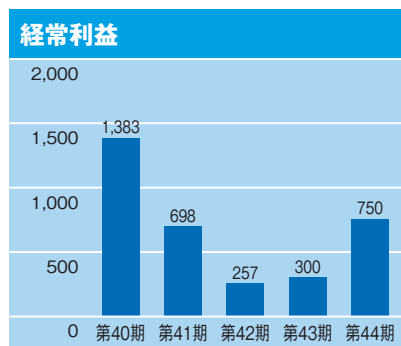
外丸 勝彦

Financial Highlights

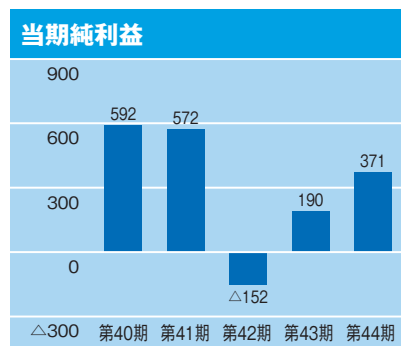
業績ハイライト(連結)



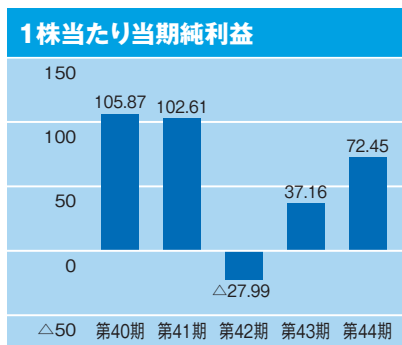
(単位:百万円)



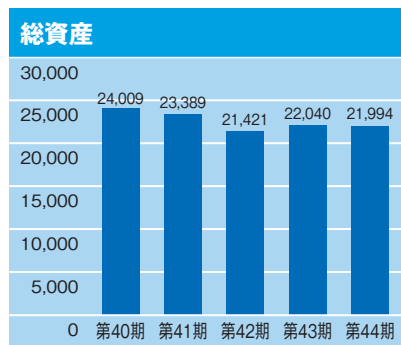
(単位:百万円)



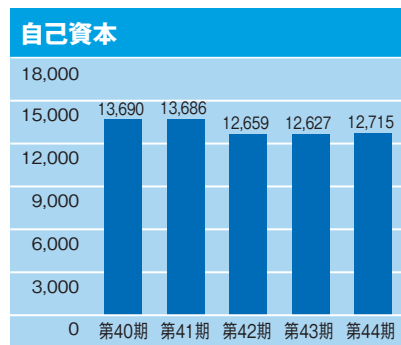
(単位:百万円)



(単位:円・銭)



(単位:百万円)



(単位:百万円)

	第40期 平成19年3月	第41期 平成20年3月	第42期 平成21年3月	第43期 平成22年3月	第44期 平成23年3月
売上高 (百万円)	18,975	18,537	16,323	15,679	16,217
経常利益 (百万円)	1,383	698	257	300	750
当期純利益 (百万円)	592	572	△152	190	371
1株当たり当期純利益 (円・銭)	105.87	102.61	△27.99	37.16	72.45
総資産 (百万円)	24,009	23,389	21,421	22,040	21,994
自己資本 (百万円)	13,690	13,686	12,659	12,627	12,715

Operations Review

当期連結業績の概要

■ 当期の概要

当連結会計年度におけるわが国経済は、アジアを中心とした新興国向けの輸出増加などにより一部の企業業績に回復の傾向や個人消費に持ち直しの兆しが見られましたが、厳しい雇用状況や長期化する円高基調の影響もあり、景気は足踏み状態で推移しました。更に、去る3月に発生した東日本大震災の影響により、景気の先行きは一段と不透明な状況となりました。

このような経営環境のもと、当連結会計年度の連結売上高は、分析機器事業については他社商品が落ち込み、わずかに前連結会計年度を下回りましたが、半導体事業が回復基調に転じたため前連結会計年度を上回り、16,217百万円（前連結会計年度比 3.4%増）となりました。

損益につきましては、分析機器事業では消耗品が伸び、半導体事業では業績の回復が進み、営業利益は737百万円（前連結会計年度比 165.8%増）、経常利益は750百万円（前連結会計年度比 149.7%増）、当期純利益は371百万円（前連結会計年度比 94.9%増）と、いずれも前連結会計年度からは改善されましたが、依然として本格的な業績回復までには至りませんでした。

なお、地震による影響につきましては、当社の工場がある福島県内では一時的に物流網が寸断されたことから出荷に遅れが出ましたが、工場建物、生産設備には大きな被害は無く、直接的な損失は限定的なものに止まりました。

■セグメント別概要

●分析機器事業

メーカーとして自社製品の拡販活動を展開することに努め、海外においては人気の高い自社ブランド消耗品LCカラム「イナートシル」が順調に伸びましたが、売上高全体では、依然国内経済の低迷による景気の先行き懸念などの影響を受け、他社商品が伸び悩み、前連結会計年度を下回りました。

この結果、当連結会計年度の売上高は10,870百万円（前連結会計年度比3.3%減）、営業利益は415百万円（前連結会計年度比75.6%増）となりました。

●半導体事業

年度初めの売上高は予想を上回って推移し、営業利益は順調に増加しました。その後は顧客の在庫調整の影響などもありましたが、想定したほどの落込みは見られず、前連結会計年度と比較し改善されました。

この結果、当連結会計年度の売上高は4,672百万円（前連結会計年度比23.6%増）、営業利益は338百万円（前連結会計年度は営業利益30百万円）となりました。

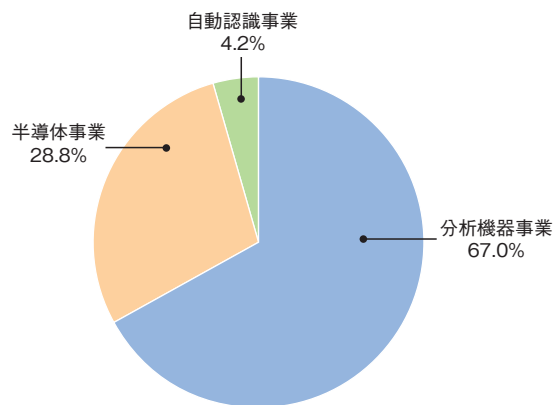
●自動認識事業

システム部門では、高付加価値製品が伸び悩み、建設関連市場の設備予算縮小の長期化により大幅な減収となりました。

デバイス部門では、勤怠情報関連など機器組込みユニット（基板）が順調に伸び、またタグ関係も警備会社を中心に大きく伸び堅調に推移しました。

この結果、当連結会計年度の売上高は674百万円（前連結会計年度比1.6%増）、営業損失は15百万円（前連結会計年度は営業利益10百万円）となりました。

セグメント別売上構成比



■次期の業績見通し

分析機器事業は、当期に引き続きメーカー営業を推進し、消耗品「イナートファミリー」をはじめとする自社製品の拡販に努めてまいります。

国内営業ではここ数年、売上高の減少、固定費の増大などにより、収益力が落ちてきておりますが、プロジェクトチームの発足、組織体制の強化により、環境の変化、激しい市場変化に耐えうる企業環境を整えてまいります。

半導体事業は、原材料価格の上昇や同業他社との価格競争の激化など厳しい経営環境のなか、外需の取込みや新規開拓、国内市場でのシェア拡大およびコストダウンなどの生産効率を上げることで業績の拡大に努めてまいります。

自動認識事業は、入退室管理装置「XRC100シリーズ」に加え、目的に合わせたプログラムが組める多機能端末「XPC100シリーズ」を警備機器関連市場へ投入いたします。この「XPC100シリーズ」は端末内アプリケーションの開発・組替により、出席管理、駐車場管理、警備機器連動などお客様のご要望に応えることで、市場の拡大を目指します。

平成24年3月期の連結業績および単独業績の見通しにつきましては、それぞれ次のとおりです。

(連結業績の見通し)

売上高	17,257百万円	(前連結会計年度比 6.4%増)
営業利益	805百万円	(前連結会計年度比 9.2%増)
経常利益	757百万円	(前連結会計年度比 1.0%増)
当期純利益	438百万円	(前連結会計年度比 18.0%増)

(単独業績の見通し)

売上高	12,200百万円	(前期比 7.5%増)
営業利益	446百万円	(前期比 26.0%増)
経常利益	472百万円	(前期比 13.6%増)
当期純利益	283百万円	(前期比 67.0%増)

Approach to the Environment

環境への取り組み

当社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであり、環境負荷低減の取り組みが企業の継続および発展にとっても必要不可欠であることを認識し、環境保全に配慮した企業活動を通じてより良い社会の実現に貢献します。

■製品を通じた環境貢献

当社は特にクロマトグラフィー関連の消耗品を多く取り扱っておりますが、環境に配慮した製品の開発・販売にも努力をしております。例えば下記に取り上げたような製品群を使用いただくことによって環境負荷を低減することができます。また、その販売数や既存製品に占める割合は増加傾向にあります。

- 従来の分析法では、前処理の段階で多量の溶媒を使用していたものを、当社の取扱製品である固相抽出カートリッジを使用した分析法に切り替えることにより、溶媒使用量の削減に貢献いたします。
- 液体クロマトグラフ（LC）の分析で使用するカラムにおいては、使用溶媒が少なく済むカラム内径の細い“セミマイクロLCカラム”や、使用溶媒が少なく、分析時間を短縮してエネルギーの削減に貢献する“ハイスピードセパレーションHPLCカラム”および“MonoCap”など、環境に配慮した製品の販売に努力しております。

—固相抽出関連製品—



—環境にやさしいHPLCカラム—



分析機器事業

試料前処理 インストルメント&ソフト・パーツ

GCやLC（後述）の機器分析装置、特にGC/MS、LC/MSにおいての高感度化は、分析基準値の見直し要求に準拠し、近年数段の進展を見せております。その装置感度の向上に不可欠な技術が分析試料の前処理・濃縮導入技術になります。高感度分析装置に分析試料を導入する際、ターゲット成分の濃縮ができれば、分析可能な低濃度試料の領域が無限大に広がっていきます。

弊社の長年にわたり培った技術により構築した豊富な前処理メソッドを、分析オペレータおよび分析装置メーカーに提供しており、極めて高い評価をいただいております。環境水質基準検査法、水道水質基準検査法に盛り込まれた塩化ビニルモノマーを含むVOC（揮発性有機化合物）および農薬分析用に販売されている「AQUA PT5000J PLUS」・「アクアトレース ASPE799」は、引き続き重要な製品群として位置付けられております。

水質分析における試料前処理に有効な「固相加圧送液装置 AQUALoaderⅢ」をラインアップしており、さらなるニーズへの対応に心がけています。

装置販売に限らず、装置同様に高度の知見を必要とする消耗製品群で、弊社オリジナルブランド“イナートファミリー”の一つである「イナートセップ」は、多様化するニーズ・環境水質市場・食品市場をターゲットに、新製品を開発・発売し、一段の売上増を進めております。



固相加圧送液装置 AQUALoader®Ⅲ



前処理固相抽出カートリッジ InertSep®シリーズ

ガスクロマトグラフ インストルメンツ&ソフト・パーツ

ガスクロマトグラフ (GC) は、試料を気化して分離・定量する分析法で、ガス成分分析から溶剤等の気化しやすい成分群の分析に適しています。その特長により、素材等の成分分析から水質・大気・土壌等の環境分析に大いに利用されております。特に弊社製品は日本の環境行政に適応・貢献すべく、年々基準値が見直されている公定分析法にも迅速に対応しております。

弊社は、「GC-4000シリーズ」を発売後、周辺装置群にも力を入れ、省スペース化を実現したFIDエアークリーン装置「AOEシリーズ」、自動ガスサンプラー「GSシリーズ」のリニューアルを行いました。GC本体のラインアップ、その他周辺装置を充実させ、お客様のさらなるニーズをサポートしております。



GCキャピラリーカラム InertCap®シリーズ



シリカモノリス捕集剤 MonoTrap®



FIDエアークリーン装置
AOE2700/AOE2300

自動ガスサンプラー
GS5100シリーズ

香気成分をターゲットとし、食品・環境における簡易濃縮分析やスクリーニング分析用として、弊社が誇るモノリス技術を利用した「MonoTrap (モノトラップ)」を発売しており、お客様のニーズに合わせた安価で手軽な濃縮分析を可能にしました。

弊社オリジナルブランド“イナートファミリー”の一つである「イナートキャップ」は、多くのラインアップを取り揃え、また、MonoTrapとのタイアップにより、安定した品質、供給で一段の売上増を進めております。

液体クロマトグラフ インストルメンツ&ソフト・パーツ

液体クロマトグラフ（LC）は、試料を液体の状態にて分離・定量する分析法で、GC分析ではカバーしきれない沸点の高い化合物の分析等に適しています。化合物の多くがLCに適しており、食品・製薬・バイオなどの分野で用いられています。研究施設に設備される分析機器導入伸び率もLC・LC/MS・LC/MS/MSはきわめて高く、需要層もバイオ・ライフサイエンス市場を筆頭に近年、高性能自動分析装置の需要が強く、弊社においてもその要求に応えられる装置を取り揃えております。

弊社では、LC分析の試料移送のキャリア流量に合わせて多種類の装置群を開発し、もっとも需要が多い汎用HPLC「GL-7400」や、高速・高分離・高感度を実現した一体型HPLC「LC800」をラインアップしております。

また、HPLCで使用するカラムとして、不活性と耐久性を兼ね備えた新しいファーストチョイスカラムである「Inert Sustain C18」を発売いたしました。



Smart HPLC システム LC800



HPLCカラム InertSustain® C18

自動認識事業

XPC100シリーズ

当事業では従来より好評を得ている入退室管理XRC100シリーズをさまざまな案件に対応させるため、カスタマイズできるXPC100シリーズを開発いたしました。

XPC100はXRC100と似た外観を持っておりますが、ユーザやベンダによるプログラミングが可能なWindows CEというOSを搭載した全く異なるコンセプトによって開発されました。

これによりさまざまな仕様にあわせたシステム設計が可能となり、ソリューションによる付加価値を生み出すことができます。すでに大学への導入実績がございますが、今後はさまざまな顧客へ向けて製品展開を図ってまいります。



OS搭載情報端末機 XPC100シリーズ

鍵管理機 KeyCubeシリーズ

鍵の管理は、規模が大きくなればなるほど、あやふやになりがちで鍵の管理責任者の方の負担は大きくなるばかりです。

この製品は、鍵の管理である「誰が・どの鍵を・いつ持ち出し・いつ返したのか？」を解決します。

非接触ICカードの認証がなければ鍵の持ち出しができず、社員ごとに鍵の「持出可」「持出不可」の設定が可能で、パソコンで鍵の使用履歴の集中管理ができます。

主な事例として車両管理業務、券売機などの鍵管理、一般オフィスでは、机、キャビネットなどの鍵管理に使用されております。



鍵管理機 KeyCubeシリーズ

XR01シリーズ

写真は、アクセスコントロール分野を中心に展開する壁付埋込型リーダライタの代表格、XR01シリーズです。高性能に加えて薄くスタイリッシュなデザインに高評価を頂いております。今後は、防滴タイプを追加しバリエーションの充実を図ってまいります。



壁付埋込型リーダライタ
XR01シリーズ

Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

●連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期 (22.3.31現在)	当期 (23.3.31現在)
資産の部		
流動資産	12,817	13,027
現金及び預金	3,494	3,813
受取手形及び売掛金	5,715	5,355
有価証券	—	80
たな卸資産	3,232	3,450
繰延税金資産	309	209
その他	85	134
貸倒引当金	△ 18	△ 16
固定資産	9,222	8,967
有形固定資産	7,706	7,426
建物及び構築物	2,915	2,738
機械装置及び運搬具	1,152	1,060
土地	3,300	3,300
建設仮勘定	19	35
その他	317	291
無形固定資産	94	88
投資その他の資産	1,421	1,452
投資有価証券	757	705
その他	700	754
貸倒引当金	△ 36	△ 8
資産合計	22,040	21,994

	前期 (22.3.31現在)	当期 (23.3.31現在)
負債の部		
流動負債	6,111	5,357
支払手形及び買掛金	2,253	2,075
短期借入金	2,618	2,367
未払法人税等	209	117
未払消費税等	28	13
役員退職慰労引当金	251	—
賞与引当金	376	350
その他	373	432
固定負債	1,657	2,222
長期借入金	1,076	1,431
再評価に係る繰延税金負債	128	128
退職給付引当金	162	308
役員退職慰労引当金	64	68
資産除去債務	—	3
その他	224	282
負債合計	7,769	7,580
純資産の部		
株主資本	13,077	13,294
資本金	1,207	1,207
資本剰余金	1,819	1,819
利益剰余金	10,558	10,776
自己株式	△ 508	△ 508
その他の包括利益累計額	△ 449	△ 579
その他有価証券評価差額金	△ 32	△ 14
繰延ヘッジ損益	△ 51	△ 134
土地再評価差額金	△ 346	△ 346
為替換算調整勘定	△ 18	△ 83
少数株主持分	1,643	1,698
純資産合計	14,271	14,414
負債純資産合計	22,040	21,994

●連結損益計算書

(単位：百万円)

	前期 (21.4.1~22.3.31)	当期 (22.4.1~23.3.31)
売上高	15,679	16,217
売上原価	10,804	10,854
売上総利益	4,874	5,363
販売費及び一般管理費	4,597	4,625
営業利益	277	737
営業外収益	107	115
営業外費用	84	102
経常利益	300	750
特別利益	5	27
特別損失	110	132
税金等調整前当期純利益	194	645
法人税、住民税及び事業税	198	112
法人税等調整額	△ 196	71
少数株主損益調整前当期純利益	—	461
少数株主利益	3	89
当期純利益	190	371

●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前期 (21.4.1~22.3.31)	当期 (22.4.1~23.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,025	832
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 422	△ 444
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 250	△ 78
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	△ 15
現金及び現金同等物の増加額	363	294
現金及び現金同等物の期首残高	1,649	2,013
現金及び現金同等物の期末残高	2,013	2,307

●連結株主資本等変動計算書

当期 (22.4.1~23.3.31)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額						少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資 利 余 金	本 利 余 金	益 余 金	自己株式	株主資本 合計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	土 地 再 評 価 差 額 金	為 替 換 算 調 整 勘 定	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
平成22年3月31日残高	1,207	1,819	10,558	△ 508	13,077	△ 32	△ 51	△ 346	△ 18	△ 449	1,643	14,271	
連結会計年度中の変動額													
剰余金の配当			△ 153		△ 153							△ 153	
当期純利益			371		371							371	
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						18	△ 83		△ 64	△ 129	54	△ 74	
連結会計年度中の変動額合計	—	—	217	—	217	18	△ 83	—	△ 64	△ 129	54	143	
平成23年3月31日残高	1,207	1,819	10,776	△ 508	13,294	△ 14	△ 134	△ 346	△ 83	△ 579	1,698	14,414	

Company Profile

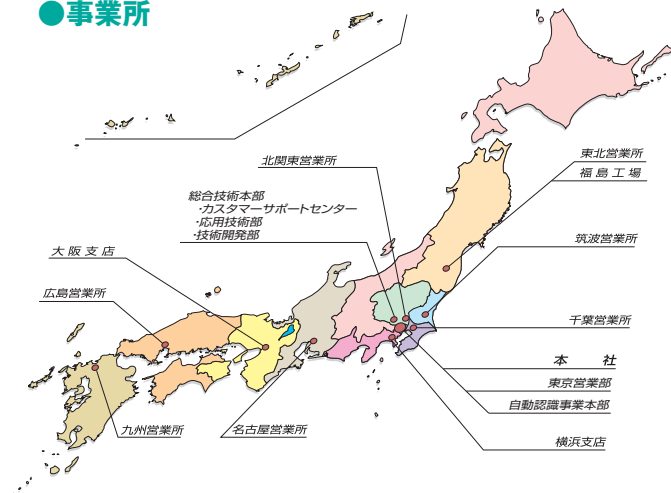
会社の概況 (平成23年3月31日現在)

●商号 ジーエルサイエンス株式会社
●証券コード 7705 (東証第二部)
●本社所在地 東京都新宿区西新宿六丁目22番1号
●設立 昭和43年2月1日
●資本金 1,207,795千円
●役員
(平成23年6月23日現在)
取締役社長 外丸 勝彦
常務取締役 高橋 良彰
取締役 大場 春祥
取締役 根生 辰男
取締役 橋詰 博文
常勤監査役 野口 一英
監査役 田村 紀彦
監査役 籠原 一晃
監査役 秋元 民也

●従業員数 423名
●主な事業
・ガスクロマトグラフィー／液体クロマトグラフィー
装置・前処理装置・部品・充填剤・分析カラム・固相・周辺機器
・分光光度計用セル、石英加工品
・半導体関連分析装置
・バイオ機器・部品
・非接触ICカード、リーダライタ
・その他すべての関連製品

●関係会社
テクノオーツ株式会社
株式会社グロース
杭州泰谷諾石英有限公司(中国)
ATAS GL International B.V. (オランダ)
GL Sciences, Inc. (米国)
島津技迹(上海)商貿有限公司

●事業所



●当社のホームページ <http://www.gls.co.jp>



●株式の状況

発行可能株式総数	22,380,000株
発行済株式の総数	5,130,169株 (自己株式464,831株を除く)
株主数	1,309名

●大株主（自己株式を除く）

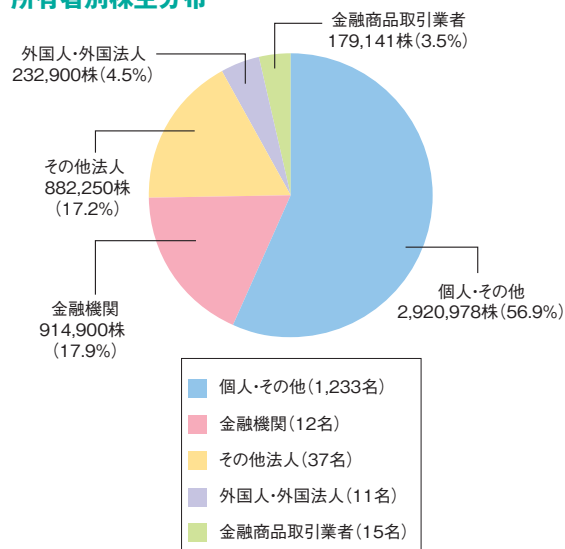
株主名	持株数	持株比率
ジーエルサイエンス従業員持株会	700,286株	13.7%
株式会社島津製作所	290,000株	5.7%
森 禮子	253,000株	4.9%
株式会社三菱東京UFJ銀行	249,100株	4.9%
株式会社山口銀行	248,000株	4.8%
東京中小企業投資育成株式会社	212,850株	4.1%
公益財団法人世界自然保護基金ジャパン	200,000株	3.9%
株式会社みなと銀行	182,000株	3.5%
矢部昭三	150,400株	2.9%
山本昭一	150,050株	2.9%

(注) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

●所有者別株主分布（自己株式を除く）

順位	株主名	持株数	持株比率
1	個人・その他(1,233名)	2,920,978株	56.9%
2	金融機関(12名)	914,900株	17.9%
3	その他法人(37名)	882,250株	17.2%
4	外国人・外国法人(11名)	232,900株	4.5%
5	金融商品取引業者(15名)	179,141株	3.5%
	合計	5,130,169株	100.0%

所有者別株主分布



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
同総会議決権行使 株主確定日	毎年3月31日
期末配当金支払 株主確定日	毎年3月31日（中間配当は行っておりません。）
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711（フリーダイヤル）
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.gls.co.jp （ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



ダイイチサイエンス株式会社

〒163-1130 東京都新宿区西新宿6-22-1 TEL03-5323-6633 URL <http://www.gls.co.jp>